

西区自立支援連絡協議会 全体会

精神障害者ピアサポート活用事業

令和8年2月17日（火）

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進事業 (地域生活支援促進事業)

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築支援事業

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進事業

※構築推進事業と構築支援事業はそれぞれ単独で実施することが可能

【実施主体】 都道府県・指定都市・特別区・保健所設置市

- 保健・医療・福祉関係者による協議の場を通じて、行政職員、医療機関の職員、地域援助事業者、当事者、ピアサポーター、家族、居住支援関係者等の様々な立場の者が協働し、障害保健福祉圏域等の単位で精神保健医療福祉に関する重層的な連携による支援体制を構築する。また、精神障害者等の日常生活圏域を基本として、市町村などの基礎自治体を基盤として進めていく必要があることから、都道府県等は市町村との協働により、精神障害者等のニーズや、地域の課題を共有化した上で、地域包括ケアシステムの構築に資する取組を推進する。

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築支援事業

【実施主体】 都道府県・指定都市・特別区・保健所設置市

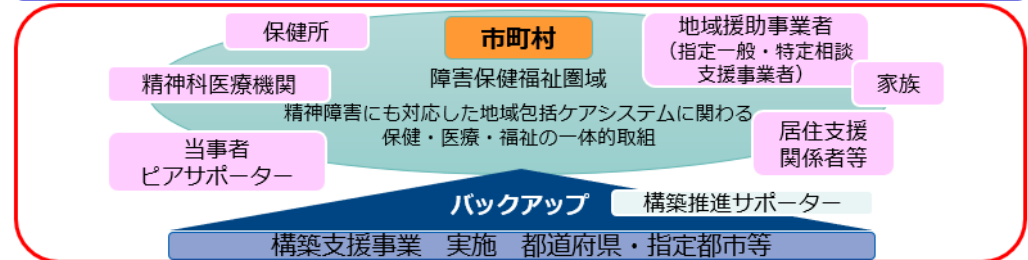
- 国において、地域包括ケアシステムの構築の推進に実践経験のあるアドバイザー（広域・都道府県等密着）から構成される組織を設置する。
- 都道府県・指定都市・特別区・保健所設置市は、広域アドバイザーのアドバイスを受けながら、都道府県等密着アドバイザーや構築推進サポーター等と連携し、障害保健福祉圏域（障害保健福祉圏域・保健所設置市）及び市町村における、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を推進する。
- 関係者間で情報やノウハウを共有するため、ポータルサイトの設置等を行う。

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進事業

【事業内容】（1のうち協議の場の設置は必須）

1. 精神保健医療福祉体制の整備に係る事業
2. 普及啓発に係る事業
3. 住まいの確保と居住支援に係る事業
4. 当事者、家族等の活動支援及びピアサポートの活用に係る事業
5. 精神医療相談・医療連携体制の構築に係る事業
6. 精神障害を有する方等の地域生活支援に係る事業
7. 地域生活支援関係者等に対する研修に係る事業
8. 市町村等における相談支援体制の構築に係る事業
9. その他、地域包括ケアシステムの構築に資する事業

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築支援事業



◆ 個別相談・支援（オンライン、電話、メール）、現地での技術的助言、都道府県等研修への協力 等

国（構築支援事業事務局）

全国会議の企画・実施、普及啓発イベントの開催、アドバイザー（広域・密着AD）等の合同研修会の開催、地域包括ケアシステム構築に向けた取組に資する事例集の作成、地域包括ケアシステム構築状況の評価、市町村における相談支援業務に係る指導員育成のための研修開催 等

<名古屋市の取り組み>

◎名古屋市障害福祉計画

長期入院患者の退院と、早期退院率の目標を設定



- 全市・ブロックのネットワークづくり
- 地域密着企画事業
- 精神障害者ピアサポート活用事業
- こころのサポーター養成研修
- 精神障害者家族ピアサポート総合事業
- 精神障害者居住体験支援モデル事業
- 精神障害者社会資源見学事業 など



- <参考> 第7期名古屋市障害福祉計画より
- 令和8年度末の精神病床における1年以上の長期入院患者数を2,269人とします。
 - 令和8年度における精神病床における早期退院率を次のとおりとします。
 - ・入院後3ヶ月時点：86%以上
 - ・入院後6カ月時点：84.5%以上
 - ・入院後1年時点：91.0%以上

西区におけるピアサポート活動の経過

R1年度

7月 西区自立支援連絡協議会で初派遣
ピアサポーター登録開始

R2年度

10月 浮野学区民生委員会に参加
12月 ピアサポート研修(栄セツコ先生)

R3年度

3月 啓発パンフレット作製
2月 ピアサポート研修(栄先生・川口先生)
7月 地域交流サロン開催
4月 ピアサポート加算 新設

R4年度

2月 全体会で活動報告
10月 市精神障害者支援地域調整会議
10月 地域交流サロン開催
6月 ピア相談会開催
5月 ピアミーティング開始

R5年度

2月 全体会で活動報告
12月 精神科病院に初派遣
7月 ピアサポート練習会開始

R6年度

3月 普及啓発用DVDの作成
2月 全体会で活動報告
6月 お祭りでヒューマンライブラリー開催

R7年度

3月 普及啓発用DVDの作成
2月 全体会で活動報告
11月 DVD上映会
5月 西区にも包括会議

「知る」

「育む」

「広げる」

西区での精神障害者ピアサポート活用事業

登録者数

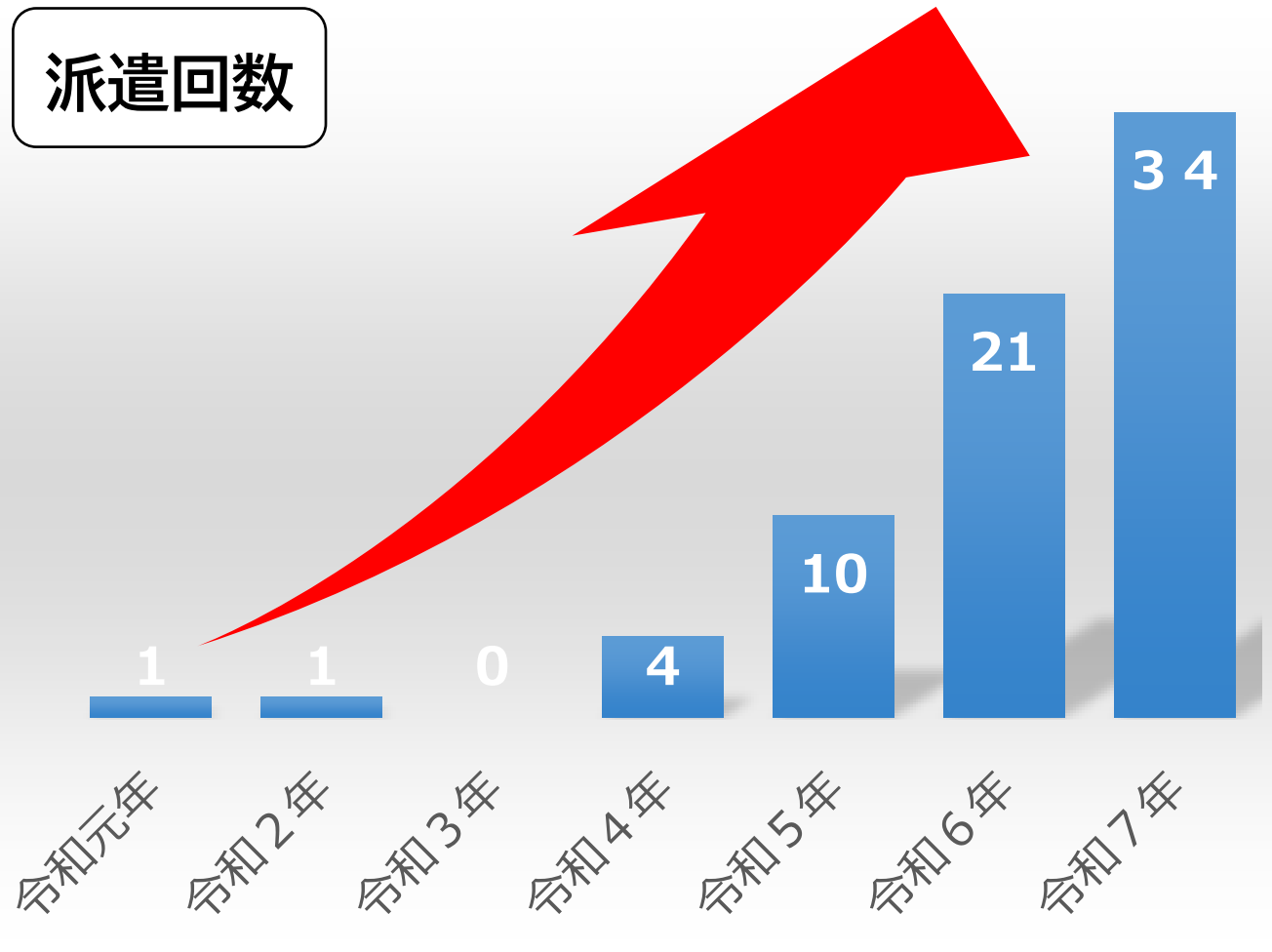


< 登録者 R8.2現在 >

統合失調症	16名
うつ病	6名
双極性障害	3名
アルコール依存	1名
発達障害	2名
強迫性障害	1名
不安障害	1名
計	30名

西区での精神障害者ピアサポート活用事業

派遣回数



< 主な派遣先 >

- ・ 訪問看護ステーションの職員研修
- ・ 支援機関の職員研修
- ・ 精神科病院
- ・ 医療・福祉系学生の実習
- ・ 地域のお祭り
- ・ 精神障害者家族会
- ・ ヘルパー現任研修
- ・ 「にも包括」構築推進研修
- ・ 地域交流サロン
- ・ 福祉施設のプログラム など

西区での精神障害者ピアサポート活用事業



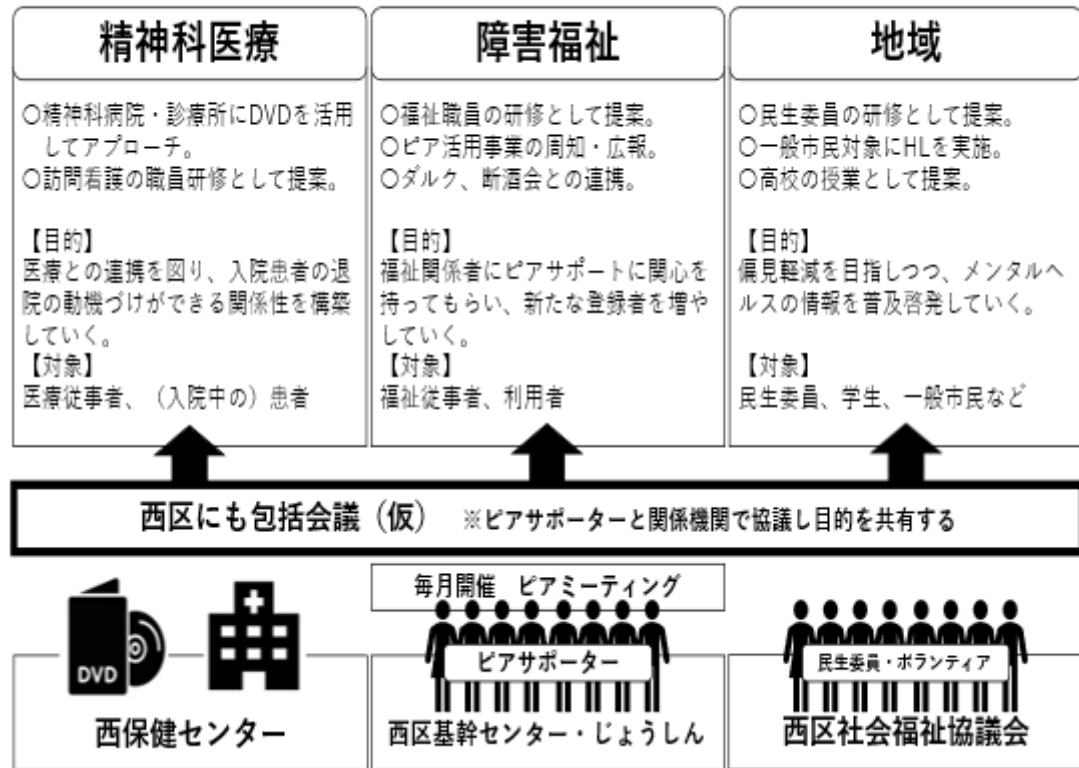
< 令和7年度実績 >

登録者数	30名
延派遣回数	34回
延派遣人数	53回
実派遣人数	22名



「西区にも包括会議(仮)」を開催

<医療・福祉・地域の3領域で、対象や目的を明確にして戦略的に活動を実施>



ピアサポーター × 保健センター × 社会福祉協議会 × 基幹センター

啓発用DVDの第2弾を製作中！

西保健センターの地域密着企画事業でDVDを作成しました。

令和6年度



退院意欲の喚起

令和7年度



教育現場での福祉教育

身体障害者ピアサポートとのコラボ

ヒューマン
ライブラリー
Human Library

まい街フェスティバル@生活塾
12月6日(土) 14:00-17:00
生活塾(名古屋市西区上名古屋3-25第5階村ビル1F)

ヒューマンライブラリーとは
生きづらさ(差別・偏見)を経験した人々が「本」となり、一般の参加者「読者」との対話を通して、互いの差異の理解や偏見の低減(偏見を消す)を目指す取り組みです。どなたでも参加できます。

タイムスケジュール 1冊ごとに15分、「本」のお話10分、対話20分、アンケート5分
参加人数は1冊の本に対し4名ずつ(※事前予約優先)

14:00 1冊目	『キセキ ～私の生きたあかし～』 おやびんさん 辛い少年時代を過ごし、就職後は同僚の悪口という幻聴に悩まされました。ひとりで怯えもがき苦しみなから、転職を繰り返すこと10年。その後、家の耐作用との関わりを経て、現在はおたさんの仲間になりました。「人生は捨てたものではない」という力強い言葉を胸に、リハビリの道を歩んでいます。
15:00 2冊目	自分の障害に向き合って しーちゃん 私は脳性麻痺の当事者として生まれました。言語障害によって、声が出せないことや、顔が動いてしまうことがうまく受け入れられないまま、幼少期を過ごしました。しかし、医師との出会いがあって、自分は自分で良いと気持ち切り替える一歩を踏み出すことができました。今も医師の言葉を大切にしながら、自分の夢を叶えたいように前に向かって進んでいます。こんな私の話をぜひ聞いてください。
16:00 3冊目	10年間の充電期間を経て、動き出した人生 → 元々動きが速い側とかわるまで～ さとちゃん 10年間のひきこもり期間を経た当事者が語る、心の回復の物語。傷つけない心を探り、強くなりたいと願った日々、周囲のアドバイスに耳を傾け、自ら動く中で、自立への道が開けてきました。今は、同じように悩む人の力になれば、と思っています。かつては、自分を傷つけることのプロフェッショナルだった10年間。そこから抜け出した「いくつかの転機」についてお話しします。

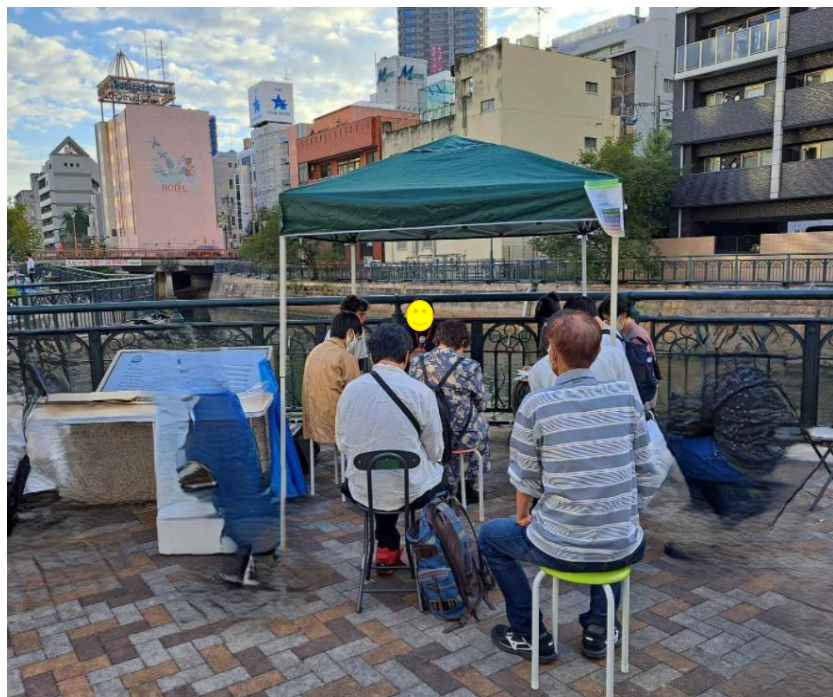
参加人数 1冊の本に対し4名(合計12名) 事前予約優先
予約方法 googleフォームよりお申し込みください
お問い合わせ shintamokuteki@gmail.com
主催 一般社団法人しん夢叶 桃山学院大学 栄セツコ
本企画運営は「精神障害当事者の誇りを生かした対話型福祉教育プログラムモデルの開発」
(JSPS科学研究費23K01865)の一助成を受けて。

まい街フェスティバル
Instagram

ピアサポート・ピアカウンセリングについては、精神障害よりも身体障害の方が進んでいる。

身体障害のピアサポーターと一緒に活動して学ばせてもらおう！

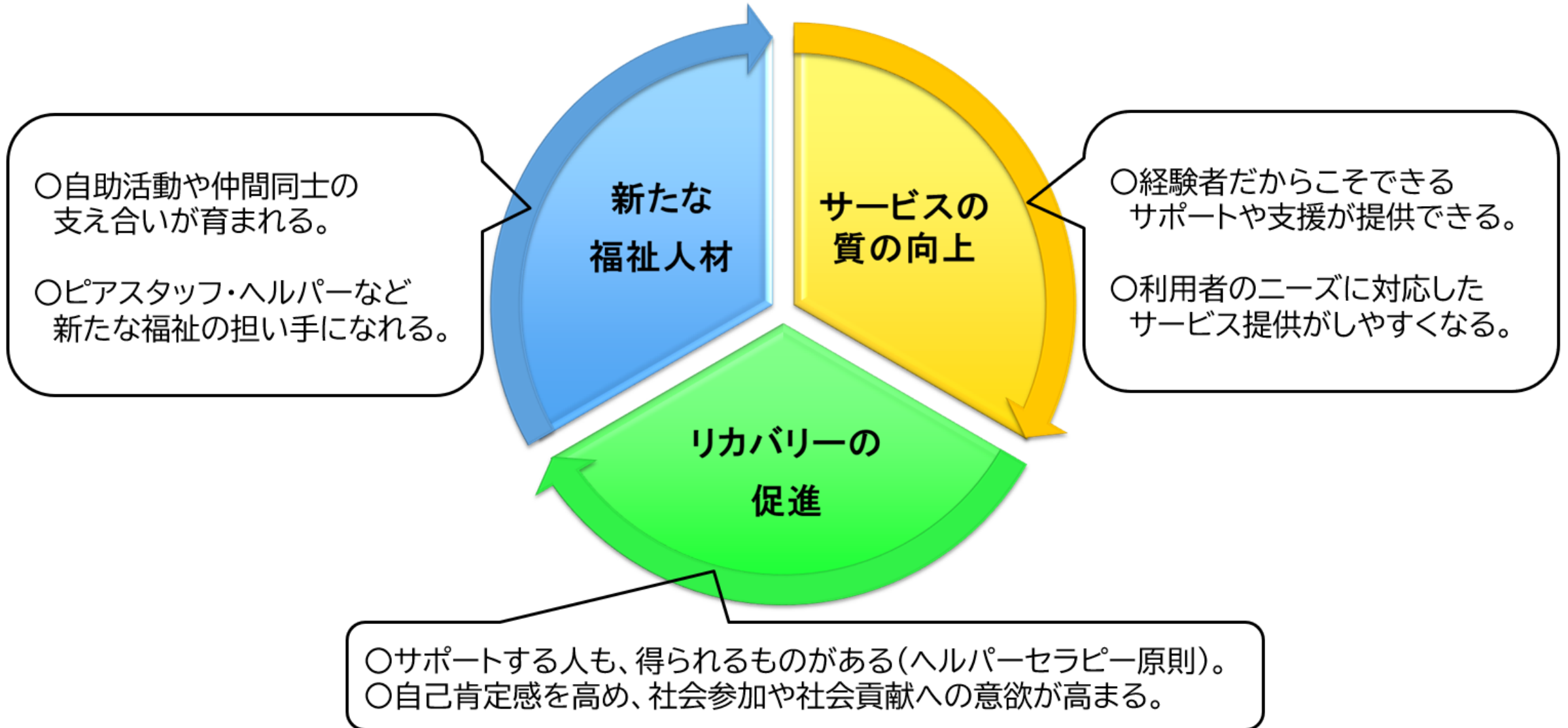
ヒューマンライブラリーの活用



○3～5名の参加者で開催
○10分発表＋20分対話

	リカバリーストーリー 講演型	ヒューマンライブラリー 対話型
メリット	<ul style="list-style-type: none">・一度に大人数に伝えられる・物語の完成度が高い・語りが聞きやすい・聴衆として参加しやすい	<ul style="list-style-type: none">・双方向の関係性が発生・(参加者が)質問がしやすい・(参加者が)身近に感じやすい・(発表者が)緊張しにくい
デメリット	<ul style="list-style-type: none">・一方的になりやすい・(参加者が)質問がしにくい・(参加者が)身近に感じにくい・成功物語になりやすい・(発表者が)緊張しやすい	<ul style="list-style-type: none">・少人数にしか届かない・物語より対話重視・語りが一般化しにくい・参加者に対話を求める

精神障害者ピアサポートの意義



本日は、ご参加いただきありがとうございました。

西区でも活躍の機会を待ち望んでいる
ピアサポーターが沢山います。

職員研修や地域啓発イベントなどでの
「ピアサポート活用事業」のご利用を、是非ご検討ください。

利用方法や派遣依頼につきましては
障害者基幹相談支援センターまでお問合せください。